

SWIFT BRAKE PAD 価格▶SS 1万2000円(税別) / SH 2万2200円(税別) / SR 2万6000円(税別)  
外国製キャリパー装着車は3000円UP

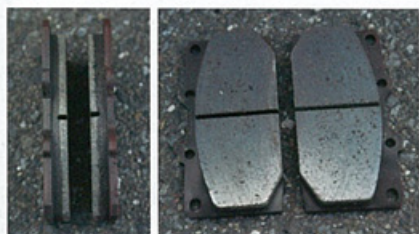
## スプリングメーカーが放つ曲がるためのパーツ スウィフトのブレーキパッドがリニューアル 止める～曲げるのやりやすさを向上!!

物欲  
促進  
倶楽部

ヒューズ <http://www.venus-inc.co.jp/swift.html>



開発アドバイザーは  
菊地靖プロ



### テストカーは ノーマルの加茂シルビア

加茂シルビアはキャリパーは前後ともノーマル。ローターはマウンテン製のスリット入りを装着する。サスはエアスポーツでF9kg/mm R8kg/mm。タイヤは前後ともにフェデラル595RS-RR 265/35R18を装着している



走行は20分を連続で行った。その後の状態がこれ。赤い塗装の色は飛んでしまうが、摩材の表面に関してまったく問題なし。ブレーキに厳しい本庄だが、減りは約1mmだった。これはスリットローターを使用しているせいもあるので、通常のスリットなしのローターであればもっと少ないだろう。SSとSRはどんな効きとフィーリング、耐久性なのかわせひテストしてみたいところである

### 走行後もローターが 綺麗なのは優れたパッドの証



S15はとくにブレーキパッドの選択が難しいクルマでもある。ロックしやすいのにコントロールもしにくいという難題がある。なのに、これだけコントロール

しやすいというのは珍しいくらい。走行後のローターも綺麗で、次の枠も同じ効きとタッチで走ることができる。効きやすいS15でこれだけいいと、他車種ではやや効きが弱い可能性がある。

swiftブランドのスプリングはチューニングカーからレースカーまで高い支持を得る。そのスウィフトでは以前よりブレーキパッドもリリースされていたが、この度リニューアルして再登場となった。

さっそく本庄サーキットに持ち込んでテストを行った。使用したのは真ん中のグレードにあたるSH。ローター適正温度は0～750℃、材質はカーボングラファイトメタルという。いわゆる街乗りからサーキットまで幅広く対応できそうなモデルだ。テスターは木下みつひろプロ。

「フィーリングはメタル系というよりも、ノンアス系に近い。踏力が必要なタイプの効きだが、安心して使えてリリースもしやすい。連続走行を重ねてもフィーリングの変化は

ない。これは摩材の熱伝導が少ないタイプだからだろう。終始タッチに変化がないことに好感が持てる。効きもリニアに立ち上がるし、これは正直なかなかいいパッドといえる。とくにクセのないこのフィーリングはドラテク上達を念頭に置いている人にピッタリ」と評価する。

編集部加茂も乗ってみた。タッチはかっちり系ではなく、やや軟らかめ。でも、悪いことではなくてそういうタッチというだけ。効きはある一点から高まったりせず安定して踏み込むほどに高まる。走りだしてすぐに慣れることができ、ブレーキのことを意識しないでいい。その分をコーナリングやライン取りに集中して走れる。そんな名脇役といえる優れたブレーキパッドなのだ。

Photos/池之平昌徳 Text/加茂 雅